

府内へ広がる！環農水研究の大阪オリジナルブドウ

○三輪由佳（食と農の研究部）

1. 背景と目的

大阪は生産量全国7位のブドウ産地であるが、生産される品種は、栽培面積のうち8割以上を占める‘デラウェア’に偏っている。近年、直売や観光農園などの販売形態の多様化、消費志向の変化に合わせて、大阪オリジナルブドウの育成が切望されてきた。そこで当所の前身である大阪府農林技術センターで1970年代に交配選抜したブドウ育成系統をオリジナルブドウとして復活させるため栽培特性を調査し品種登録を行った。また、府内ブドウ産地への普及のため、健全苗の供給体制の構築や栽培技術の確立を行い、さらに普及拡大のためのブランド化の取り組みを開始した。

2. 事業の内容／調査方法と結果概要

(1) 品種特性とウイルスフリー苗の供給体制

- ①特性調査を行い、2018年3月に‘ポンタ’として品種登録した。ポンタの特性は育成地の大阪府羽曳野市における雨よけ栽培樹の開花期は5月中旬、成熟期は8月上旬の早生品種。棚もちがよく9月上旬まで収穫可能。果皮色は紅から黄のグラデーションがかかる。果粒は円形で、ジベレリン処理により7～8g程度になる。皮離れが良く、糖度20度以上、酸含量0.4g/100ml程度で「巨峰」より糖酸比が高い。フォクシーを基調とする甘い香りをもち、非常に食味が優れる。
- ②府内配布にあたり苗のウイルスフリー化を実施した。熱処理茎頂培養した84個体の中から継代を繰り返して、分化・発根した26個体を馴化処理した。ウイルス検定で陰性であったうちの1個体をほ場に定植し、ウイルスフリー母樹とした。

(2) 省力的な栽培方法の確立と栽培マニュアルの作成

摘粒作業省力化のために、花蕾除去器具による摘蕾処理を検討した。本品種の摘粒に、慣行法では1房あたり4分48秒要したが、花蕾除去器具によって摘蕾処理した場合、2分47秒となった。果実品質や外観も遜色なく、摘粒省力化として有効であることが明らかとなった。果実品質や外観も遜色なく、摘粒省力化として有効であることが明らかとなったが、花蕾除去器具によって花蕾が除去されすぎると粒ぞろいが悪くなったり果粒数が少なくなったりして果房が小さくなるので除去器具は2～4回程度の使用とする。省力的な摘粒方法を含め、栽培暦や病害虫の防除、植物ホルモン処理方法などを取りまとめてマニュアルを作成し、生産者へ配布した。

(3) 販売支援

本品種の普及・販売について、生産者や流通業者と意見交換した。非常に美味で栽培したいとの生産者の好意的な評価の一方、流通業者からは中粒・着色不安定などマイナス要素があるため、消費者と対話できる直売・試食形態をとりながら、消費者に味の良さをアピールする工夫が必要との意見があった。

3. 今後の方向性／考察

(1) 品種特性とウイルスフリー苗の供給体制

母樹からウイルスフリー苗のための穂木を採取提供し、2019年度は試験栽培用として大阪府内生産者へ提供した。2020年度以降は、大阪府園芸優良健全種苗供給事業により大阪府内生産者のみに販売を開始する。

(2) 省力的な栽培方法の確立と栽培マニュアルの作成

今後は栽培マニュアルの改訂を行っていく。

(3) 販売支援

果皮色を揃えて作りにくいのであれば、果皮色の違いが異なる風味を生むデータがあれば販売に利用できると考え、異なる果皮色を活かした販売方策を探るため、果皮色と果実風味の関係性の調査を開始した。